

調査研究終了報告書

研究分野：保健

|  |  |
|--|--|
| 調査研究名  | ダイオキシン類のヒト健康影響に関する調査研究<br>-油症患者ダイオキシン類追跡調査を中心として-  |
| 研究者名(所属)<br>※ O印: 研究代表者  | ○梶原淳睦(生活化学課)、平川博仙(同)、戸高 尊(九州大学大学院医学研究科)、井上英((社)食品衛生協会リサーチレジデント)、堀 就英(生活化学課)、芦塚由紀(同)、村田さつき(同)、中川礼子(同)、松枝隆彦(計測技術課)、飛石和大(同)、安武大輔(同)、小野塚大介(情報管理課)、片岡恭一郎(同)、吉村健清(所長)、古江増隆(九大医学部)、岸 玲子(北大医学部)  |
| 本庁関係部・課  | 保健福祉部生活衛生課   |
| 調査研究期間   | 平成 16年度 - 18年度 (3年間)   |
| 調査研究種目   | 1. <input checked="" type="checkbox"/> 行政研究 <input type="checkbox"/> 課題研究<br><input checked="" type="checkbox"/> 共同研究(共同機関名: )<br><input type="checkbox"/> 受託研究(委託機関名: )<br>2. <input type="checkbox"/> 基礎研究 <input checked="" type="checkbox"/> 応用研究 <input type="checkbox"/> 開発研究<br>3. <input type="checkbox"/> 重点研究 <input type="checkbox"/> 推奨研究 <input type="checkbox"/> ISO推進研究 |
| ふくおか新世紀計画<br>第3次実施計画   | 柱 : いきいきと暮らせる安全・安心な社会づくり<br>大項目: 健やかに暮らせる社会づくり<br>小項目: 県民の健康暮らしづくり   |
| 福岡県環境総合基本計画<br>(P 20,21) ※環境関係のみ   | 柱 :<br>テーマ:  |
| キーワード  | ①カネミ油症 ②ダイオキシン類 ③血液 ④環境ホルモン ⑤母乳  |
| 研究の概要  |  |
| <b>1) 調査研究の目的及び必要性</b><br>油症は福岡県を中心に発生し現在も多くの患者が居住している。油症をはじめとするダイオキシン類のヒト健康被害及び次世代への影響は多くの県民、国民の大きな関心事であり、ダイオキシン類のヒト健康影響を究明し、健康被害を低減化することは科学的行政対応を遂行していく上で非常に重要である。   |  |
| <b>2) 調査研究の概要</b><br>ダイオキシン類のヒト健康影響を解明するために膨大な人ダイオキシン汚染データが必要である。本研究では、全国の油症患者の血中ダイオキシン類追跡調査、ダイオキシン類の人体臓器分布調査、妊婦母体血及び母乳調査による胎児期・乳児期影響調査、一般人の血中ダイオキシン調査による人体のダイオキシン類汚染レベルの解明および汚染状況の解析、ダイオキシン類の体内濃度が精子運動能に及ぼす影響の解明、油症患者に対する排泄促進剤及び漢方薬投与による治療研究の評価を行なう。  |  |
| <b>3) 調査研究の達成度及び得られた成果(できるだけ数値化してください)</b><br>1. 調査研究実績; ①油症検診受診者血中ダイオキシン調査: 総数 1097 件。②一般人バックグラウンドレベル調査 (127 件)。③母体血中ダイオキシン調査 (269 件)。④母乳中ダイオキシン調査 (60 件)。⑤治療研究 (排泄促進 123 件、漢方治療 53 件)。⑥精子運動能への影響調査 (123 件)。これらの調査研究を活用して患者認定基準が見直され平成 16-18 年に 39 名が新たに油症患者に認定された。次世代影響の解明では、母体中のダイオキシン類のうちのいくつかの同族体濃度が児の運動機能や精神発達に影響を及ぼしている可能性が示唆された。また、ダイオキシン類の体内での挙動について同族体により異なる傾向が見られた。治療研究、精子運動機能への影響は解析中。<br>2. 成果物; 厚生労働科学研究費報告書: 9 編。学術論文: 7 編。学会発表: 国際学会; 7 報、国内学会; 14 報 |  |
| <b>4) 県民の健康の保持又は環境の保全への貢献</b><br>ダイオキシン類によるヒト健康や次世代への影響を解明し、健康被害を軽減することは油症患者及び一般県民の健康増進、不安の解消に寄与する。  |  |
| <b>5) 調査研究結果の獨創性、新規性</b><br>5ml の血液からダイオキシン類の個別異性体濃度の決定に成功し、血液中ダイオキシン類濃度の大規模な調査を可能にした。本研究は油症患者ダイオキシン類追跡調査等の際にダイオキシン類の個別異性体濃度を解析した世界的にも規模の大きなダイオキシン類ヒト健康影響調査である。また、ダイオキシン類の次世代影響解明の基礎情報を得る調査研究である。  |  |
| <b>6) 成果の活用状況(技術移転・活用の可能性)</b><br>油症患者診定の基礎資料として用いられ、2004-06 年に 39 名が新たに油症患者に認定された。ダイオキシン対策の科学的行政対応を遂行していく上で、健康被害や次世代影響への判断材料を提供し、健康被害に対する施策の展開に寄与することが期待される。  |  |